

第 19 回植物病原菌類談話会ご案内

第 19 回植物病原菌類談話会を、下記のとおり開催いたします。奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

日時：平成 31 年 3 月 20 日（水）（大会最終日）

日本植物病理学会大会の閉会式終了 30 分後に開始～20:30（予定）

場所：つくば国際会議場（平成 31 年度日本植物病理学会 大会第 2 会場 大会議室 101）

卵菌、接合菌、子囊菌、担子菌

—旧？菌界を見渡します—

偽菌類と扱われるようになった卵菌類、解体されようとしている接合菌類、実は生物界では珍しい後方鞭毛を有することで、植物よりは動物に近い菌類、なかなか聞けない広義糸状菌全体を見渡したお話です。

講演内容：

1. 「卵菌類の新分類体系に向けて」

独立行政法人製品評価技術基盤機構 NBRC

稲葉 重樹

卵菌類が真の「菌類」とは異なる系統群（クロミスタ界やストラメノパイル類）と認識されるようになって久しい。菌類と同様に、分子系統学は卵菌類の分類に劇的な変化をもたらしたが、十分な体系化には至っていない。本講演では、卵菌類の最近の系統学的研究結果を紹介するとともに、卵菌類の新分類体系構築に向けての課題について考察する。

2. 「消滅してしまった？接合菌類の分類と多様性」

筑波大学 山岳科学センター 菅平高原実験所

出川 洋介

側系統群であるが故に分類群としては消滅した“接合菌類”は、たかだか 1 千種からなる小さな群だが、その多様な顔ぶれは全菌類の多様性の縮図とも見なされ、菌界のダイナミックな進化を色濃く物語る「生きる化石」だともいえる。水中に生まれた菌類がいかに陸上に進出し大繁栄を遂げたのか？という命題について考えつつ、接合菌類の分類と多様性を俯瞰する。

3. 「子囊菌類の最近の分類を俯瞰する」

国立科学博物館 植物研究部

細矢 剛

分子系統学のお目見えによって、子囊菌類の分類体系は大きく変化した。子嚢果の形態によって大きく分けられていた上位の分類体系が一部否定され、新体系が提唱されている。この変革は特に原始的と考えられる分類群において著しい。本講演では、最近の子囊菌類の系統学的解析結果に基づいて、分類体系を概観する。

4. 「担子菌類の未知系統探索が解き明かす新たな多様性」

三重大学大学院生物資源学研究科

白水 貴

担子菌類は植物寄生菌、菌根共生菌、木材腐朽菌などの生態的に重要な菌群を含む真菌類の一群であり、陸上生態系の生物間相互作用や物質循環に深くかかわっている構成要素である。近年の分子系統解析により担子菌類の系統進化に関する理解が進展するとともに、強力な多様性探索ツールとしての環境 DNA 解析が未知の多様性を急速に可視化してきている。本談話会では、担子菌類の全体的な系統関係を俯瞰したのち、子実体、菌糸体、環境 DNA を検出対象としたきのご類多様性探索の試みについて解説する。

参加費：一般 1000 円、学生 500 円（会場費及び資料印刷費）。当日、会場にてお支払い下さい。

問い合わせ先：植物病原菌類談話会 第 19 回コーディネーター

森川 千春（石川県農林総合研究センター）E-mail : m-chiha@pref.ishikawa.lg.jp

同談話会代表幹事 渡辺 京子（玉川大学）E-mail : wkyoko@agr.tamagawa.ac.jp